

MATSUNAGA HEADLINE NEWS

株式会社松永建設
サードステージ
始動式典
特別号

2008 創刊号 Vol.1

TAKE FREE

発行元：株式会社松永建設
発行人：松永大祐
〒339-0043
埼玉県さいたま市
岩槻区城南五丁目6番6号
TEL：048-798-1751(代)
FAX：048-798-0075
[HPアドレス]http://www.matsunaga.gr.jp

社松永建設 “サードステージ” 始動式典 松永大祐新社長 就任祝賀会



松永大祐社長就任

サードステージ始動

**創業45年、「誠意」と「挑戦」の歴史だった
先人たちの歩んできた「王道」を継承し
創意と提案型のサードステージが始まった**

2008年2月9日、さいたま市大宮区の清水園において、「サードステージ始動式典」と題して、松永大祐新社長就任祝賀会が開催されました。

式典には全社員に加えて、長年松永建設と苦楽を共にされた関係会社の方々も多数ご出席いただき、創業45年の歴史

に思いを馳せ、新社長の船出を盛大に祝うものとなりました。

松永建設の創業は昭和38年、材木業に始まります。創業者松永忠三郎は、旧岩槻市の合併に奔走した人物であり、地元岩槻の発展に人生を懸けました。忠三郎の精神を継承して昭和48年社長に就

任した功前社長（現会長）は、高度成長期という時代の中で地域の発展を図りたいと、大胆にも建設業に進出します。以来、松永建設は挑戦の歴史でした。後発という逆境をはねのけ、地元への大手製造メーカー企業との進出というビジネスチャンスをつかむべく全力投球、結果を残すことで実績を築き上げてきました。

現在、松永建設の事業は、道路整備、宅地造成などの土木、公共施設、工場・倉庫、医療・福祉施設、住宅建築、宮繕事業など総合建設業として多岐に渡り、

また自らグループ会社で高齢者福祉施設の運営を行うなど、建設物竣工後の運営まで射程に入れたノウハウを蓄積し、専門分野を拡充すると同時に、幅広い土地活用などトータルマネジメントも展開しています。

可能性を信じて共に歩んできた社員、どんな環境においても諦めることなく、心身ともに助けてくれた関係会社の方々一同に会し、松永建設の将来を担う大祐新社長に熱烈なエールを贈ってくださいました。



盛大な祝賀会とともに、魂のコンゴは鳴った。サードステージ！始動



お茶目な人柄もチラホラ見える大祐新社長。「パワーと気遣いの人」との評判も



社員全員の涙と喜び、パーティは絶頂に。2月に汗をぬぐうほどの熱狂でした



就任を記念してオリジナルDVDを制作し、式典のお土産に。贈るは大祐社長の御筆、熱い思いが込められています

TOP NEWS 松永大祐社長就任 サードステージ始動!

目線を高く、45年のバランスシートを脳裏に浮かべ 次の世代、次の時代に、何を渡せるか

「いま私は バトンを受け取った!」

弱冠39歳、体力、気力ともに、社長という重責を受け持つ準備は万全、松永大祐社長の新体制がスタートを切りました。かつてロック少年だった大祐社長は、パンチの効いた音楽を好むと同時に、微妙なハーモニーに涙する感激派。グループ会社を含め200名余の社員を引っ張るリーダーであると同時に、社員一人一人を盛り上げる名脇役を目指しています。大祐社長の武者修行先は、伝統と歴史、高い技術力をもった竹中工務店。20代の感性は、物づくりへのこだわりや職人気質に共感し、苦勞を苦勞と思わず、い

い汗をかく仕事を誇りとするスピリッツを形成しました。その後、会社に戻って10年、会長はじめ先輩たちに教えられ、鍛えられ、松永建設のスピリッツを叩き込まれました。受注を巡って大手企業と渡り合う場面も幾たび、筋の通らない話には客先へ夜討ち朝駆けで直訴したことも…。「地元から逃げない」「課題から逃げない」「お客様の要望に真正面から取り組む」という松永建設の伝統が、「逃げない男、大祐」を育ててくれたのです。



「優れた建築師・土木構造物こそが私たちの建設業の真髄であり、優れた建築物・土木構造物は「人」が生み出します。人こそが財産ですよ」と、身を乗り出す新社長、熱き血脈の39歳

技術とスピード、誠意とアイデア “提案型企業”として邁進

「我々が提供できる“最高”は何か?」「どのような価値を提案できるか」松永大祐の頭の中は常に自問自答の繰り返しです。土木・建築技術が高度専門化した現在では、最新の技術を持っていることは参加資格に過ぎず、どれだけスピーディに、かつ丁寧に確かな仕事をするか、いかに顧客ニーズや現場の事情に対処するかが課題となります。しかも建築物はただの器ではありません。工場には工場の、医療施設には医療施設の運営があり、住まいには住み心地があります。お客様に納得いただける建造物をお客様の希望する工期で、完成後のメンテナンスに責任を持ち、先々の運営を考慮に入れた「作品」を送りだ

たい、そのための創意工夫と価値の創造にこそ建設業の醍醐味があります。松永グループが運営する安心リビング・センター「うらら岩槻」もその1例、自ら高齢者福祉施設を建設・運営することで、ハードとソフトの両面から、より細やかな提案が可能となります。また、営繕事業を堅実に継続することで、お客様との長い付き合いや未来に責任をもつ企業精神を継承します。「技術とスピード、誠意とアイデアで、最善を提供し、お客様にとっての最高を提案できる企業」意気込みも新たに、松永大祐が目指すサードステージの企業像です。

「技術は人なり」 私は建設業の王道を歩きます

社である「信をもって至とす」は、創業から今日を貫く企業精神です。お客様の信頼が会社を育て、信頼に応えることで会社は磨かれます。そして常に「本業ありき」。時代の波は承知するものであって、踊らされるものではありません。確かな「モノ」を残してこそ、松永建設が松永建設として生き残り、地域に貢献できる道だと考えます。そのためには、社員が丸となること。社員ひとりひとりを大切に、誰もが仕事に誇りをもてる企業風土であるように、

新社長は日々精進の決意です。「私の代になって、何か特別なことをやるわけではありません。どんな時代にも顧客のためにまじめに汗をかく、それが王道だと思います。経営も1年単位の目標だけでは拙速なものになるでしょう。私の頭の中にも、45年間の蓄積された長期のバランスシートを入れておきたい。次の世代にバトンタッチをするとき、どのようなバランスシートが渡せるか、それが私の役割であり、私の勝負なのです」サードステージの幕開けです。

松永建設の沿革

昭和38・4・25
創業

昭和39・8・4
設立

昭和39・8・4
材木業としてスタート

昭和48・4
松永功社長就任

昭和54・12
株丸忠産業 設立

昭和61・8
松永都市開発 設立

平成3・4
株松永建設 越谷支店 開設

平成5・4
株松永建設 春日部支店 開設

平成8・10
松永住宅 設立

平成11・11
株松永建設 東京営業所 開設

平成15・5
安心リビング・サポータ 設立

平成16・6
安心リビング・センター「うらら岩槻」開設

平成16・8
株松永建設 三郷営業所 開設

平成19・12・27
松永大祐社長就任



社長「信以爲實」先代の築いた信頼関係を継承発展。新しい時代に向けて材木業から建設業へ転換



創業者松永忠三郎は、旧岩槻市の合併に全力を注ぎ、生涯、岩槻の発展を願ってやまなかった



うらら岩槻

man
of
Month

社長賞に輝いた 「曙ブレーキ工業(株)館林製造所増築工事」作業所

顧客の意気込みを汲み取り、プロのほこりを見せる

国内有効の自動車部品メーカーの曙ブレーキ工業(株)様(原産1部)が、国内生産拠点の再編成を目指して館林に新工場を新設しました。このプロジェクトは、高品質で定評の同社が「環境に配慮した綺麗・快適な職場環境、活力ある新工場」をコンセプトに、2008年春の操業開始を目指したものです。

旧工場を解体し、跡地に電気戸などのリサイクル施設も兼ね備えた最新の製造

施設を建設するもので、経営部、環境部ともに同社の意気込みが強く打ち出された計画です。「松永建設に任せていただいたからには、期待以上の仕事で応えたい」と、強い使命感でスタートを切りました。

改修部分は約10,000㎡、新工場は約2500㎡、地下9メートルのピットなどのリサイクル施設も併設するため、通常は7ヶ月の工期が想定されます。ところが実際の工期は5ヶ月、しかも解体工事からの着手です。

「相当難しい工程ですが、製造工場ですから計画が決まれば製品受注も発生するでしょう、完成を遅らすことはできません。お客様の準備、顧客第一、これを実現するのはプロの要地なんです」と、須藤所長はマンパワーで狭む時間との戦いに突入したのです。

通常は8時～17時の作業の元、24時間体制を組み、5人の監督が昼夜交代で号令を飛ばし、連日150人の職人が汗を流し、ここぞとばかりプロの仕事を見せつける日々となりました。工期が短いだけに、緊張感は高まります。そしてついに今年1月、新工場は無事に竣工を迎えることができました。

完成した新工場は、新工場のイメージを一新する美しい白亜の外観です。その白さは、新工場に込めた曙ブレーキ工業の思い入れを象徴しています。そしてこの白には、プロを自負する男たちのプライドが盛りこまれているのです。納期の社会貢献「作品」となりました。



曙ブレーキ工業(株)館林製造所増築工事プロジェクトマネージャー 須藤 浩一



曙ブレーキ工業(株)館林製造所

業(株)様の思い入れを象徴しています。そしてこの白には、プロを自負する男たちのプライドが盛りこまれているのです。納期の社会貢献「作品」となりました。

社長の男気コラム

アメリカはハワイ州オアフ島にて例年ホノルルフェスティバルが3月に開催されており、さいたま市も増設祭りに毎年参加しています。一昨年、昨年もこのフェスティバルに参加させていただいているのですが、今回も熱い参加意を受け、社長就任後ではありましたが、「男気」にて参加してきました。

3月のハワイは、日中若干暑い位で、基本的に涼しく過ごしやすい天候です(夜は上着を羽織らないと寒い位です)。ホノルル・フェスティバルは、ワイキキのメイン通りであるカヌカウア通りを通行止めにして行われます。日本各地、その他アジア各国からも出席しています。

我らが竜神は、高さ約6m、長さ50mほどあり、膨らますためのヘリウムガスは20本分ものボンベが必要です。パレードする際に、交差点の信号をいかにクリアするかがポイントであり、観客もそこを楽しみにしています。

パレードは午後6時スタート。現地ハイスクールの生徒も大勢参加し、大いに盛り上がりました。ポイントの信号クリアも観客の皆さんから「GOOD JOB!」の連発!皆さんの協力により盛大にそして無事にパレードを終らすことが出来ました。異国の地のフェスティバルにさいたま市の代表として、参加することに一市民としてとても誇りに思

ます。やはり「祭」は気持ち盛り上がりやすいですね。

ハワイは、活火山もあるためか、とてもスピリチュアルでエネルギーを感じます。ハワイに行ったことで、新たな気持ちで、仕事に打ち込みます。

来年は、記事をお読みの方にも一緒にいかがですか?美味しいレストランとロミロミ・マッサージの店をご紹介しますよ。以上、ホノルル・フェスティバルの報告でした。

旅日記「ハワイ」



編集後記

この度は短時間で、しかも不慣れた状況での制作となり、一時はどうなる事かと思われましたが、ようやく新刊号が発行となりました(関係者の皆さんご協力ありがとうございました)。その様な新刊号ですが、皆さんの目にどのように映りましたでしょうか? 今後は皆さんのご意見をお聞きしながら制作していければと思っています。取材内容は拒否しないので下さい。今後ともよろしくお願い致します。

編集人

「友の会」が新しくなりました!

今年18周年を迎える「不動産有効活用友の会」。総勢約100名の方が所属する同会では、各種規制や都市計画法の最新情報、最近の土地活用成功事例のご紹介など、多彩な情報が提供されています。会合の場では、土地活用をされた地主さんとの意見交換も活発。説明や東京湾ベイクルーズなどイベントも盛りだくさんです。

有効な土地活用には、豊富な情報と時代のニーズを的確に把握する必要があります。また、一朝一夕では無い確かな信頼関係が大変重要となります。そこで、松永建設では有意義な「友の会」の活動をより発展させるべく、4月1日、「松永建設グループ友の会」として新たに発足しました。会員の方より密接に連携し、不動産の情報提供や活用方法の提案等を行い、相互の信頼関係をさらに深め、資産価値の向上と会員サービスの充実を図る所存です。新設された不動産開発部(中野が原)も、日々収集した豊富な情報やノウハウをフル活用いたします。会員間の交流や情報交換は大いに参考となることでしょう。また、友の会な

らでは、疑問や相談へのきめ細かな対応、気さくな雰囲気なども気にかけていただければと考えています。ぜひ、ご参加ください。

■事務局: さいたま市岩槻区本町一丁目5番4号 松永都市開発株式会社

■問合せ先: 事務局 橋本 真穂まで

TEL: 048-757-0312

FAX: 048-757-3212

「不動産有効活用友の会」会員様各位

拝啓 貴社の様、ますますご盛況のこととお慶び申し上げます。さて、平成20年4月1日をもって「不動産有効活用友の会」を改め「松永建設グループ友の会」として新たに発足することとなりました。今後も旧来に準じて、個別のお引立てを賜りますようお願い申し上げます。敬具
松永建設グループ友の会 会長 松永 功

実績
ラインナップ

自薦・他薦 私たちの「すごい仕事」
特別養護老人ホーム「鴻巣まきば園」新築工事

2カ月の着工遅れのビハインドを取り戻した
“4フロア同時施工”

医療・福祉施設では埼玉県内を中心に数多くの施工実績を重ねてきた松永建設ですが、建築確認の遅れなど諸般の事情から、当初計画より2ヵ月遅れての着工となりました。

建物ボリュームからすれば、上棟までは通常なら8ヶ月～10ヶ月は欲しいところですが、「工期厳守」かつ「品質重視」はどちらも遵守すべきもの。そこで、われらがホープ村松統括所長は、「上棟後の4フロア同時施工」という難業をやってみせたのです。

鴻巣まきば園は、鉄骨造4階建て、120床、延べ床面積約5500㎡の規模で、プロバンス風のデザインを採用したお洒落な老人ホームです。エントランスやホールは清潔感だけでなく気品があり、個室は壁の色も10タイプと個性を持たせ、柱など角ばる部分は丸みを持たせるなど、細かな配慮が随所に施されています。そのため仕上材メーカーも数社となり、仕入、コスト、搬入の管理も複雑です。加

えて、短工期・高品質に対応可能な信頼できる協力会社の確保は、通常でも生易しくありません。

「多い時には1日に100人ほど職人さんが入ります。上下で仕事をしたり、同じ部屋に複数の職人さんが入りますから、安全管理に一番神経を使いました」

村松統括所長は、朝礼で当日の作業スケジュールを、昼には翌日の工程打ち合わせを上手にリードすることで、物と人の流れをコントロールしていきました。

また、防音シートを張って周辺環境に配慮するだけでなく、迷惑をかける近所には2週間ごとに工程表を持って説明に行くなど、周囲の不安や懸念を汲み取って、先に先にと対処していったのです。

平成20年3月19日、鴻巣まきば園は無事に竣工されました。出来栄に施主様もご満足、何よりも無事故で迎えられたことに村松統括所長は胸を撫で下ろしたといえます。

「4フロア同時施工」を、「別に特別な



プロバンス風のお洒落な雰囲気漂う「鴻巣まきば園」

ことをするわけではなく、4つのフロアの工事を同時に行うだけですから」とこともなげに話す村松統括所長ですが、その顔の中で四重奏がハーモニーを奏でているのでしょう。統括所長の指揮下を好む職人さんは多いとまじらの評判です。困難を困難と思わせない仕事振りに、まさに脱帽です。



施工を取り仕切った村松統括所長（左）（丁々見止の津野氏（右）と、今度もいいコンビネーションが、温かな人情が感じあがる「完璧な仕事」に脱帽

部署紹介

新たなチャレンジが始まった、
新設「不動産開発部」

昨年11月より新設の不動産開発部が開始しました。スタッフは5名、土地情報の収集から土地活用の企画・開発を行う、創造と提案のセクションです。土地開発からのプランニングは松永建設が手がけてきた事業ですが、部署として新設・強化することで、地域に根ざした総合建設・不動産（デベロッパー）として松永建設の一貫体制拡充の一翼を担うこととなります。

松永建設の強みは、何と言っても創業45年の歴史が培ってきた地域の信頼と実績です。共に街造りに貢献してきた友人の幅広いネットワークに支えられ、営業業務が育んできた「世代」を跨いでの長いお付き合いが、松永建設に確かな情報を提供して下さると同時に、時代のニーズに対応した堅実な土地活用へ、多くの方々から熱い期待が寄せられています。

不動産開発部は土地開発から建築・施工、運営まで、トータルマネジメントの観点から事業展開を推進します。地域密着企業ならではの確かな土地情報を把握し、物件には必ず足を運び、情報を精査し、企業ニーズにマッチングした土地活用を提案します。地元さいたま市を始め、埼玉県で培ってきた磐石な信用、豊富な



「土地活用は不動産事業の醍醐味」と語る斎藤不動産開発部長。竣工式などで地主様から感謝や喜びの声を聞くと、胸が熱くなるという、感激タイプのお人柄

情報をベースに、物流拠点としての岩槻の魅力を掘り起こすなど、極めて精度の高いプランニングが実現しようとしています。

「土地情報のストックが着々と積み上がっています」と意欲満々の斎藤部長。新設部署とはいえ、従来からの実績とノウハウの蓄積には定評があり、地主様との心の通ったコミュニケーションを当然のことと認識し、地元から一歩も逃げない松永建設ならではの堅実な土地活用に、地域の方々からの熱い期待が寄せられています。

平成19年度
埼玉県優秀建設工事
「優秀賞」受賞



埼玉県発注の優れた公共工事を知事が表彰する埼玉県優秀建設工事施工者表彰。平成19年度の土木部門で、松永建設が優秀賞に輝きました。対象は平成18年度完成工事3529件で、表彰は優秀賞6社、特別奨励賞6社。その中で、松永建設の「中川流域下水道 中央幹線 チュウ36人孔外防食工事」が、優秀賞を受賞しました。供用中のマンホールの防食工事という危険を伴う難工事を、徹底した安全管理によって無災害で竣工し、十分な品質管理による良好な出来栄が評価されたものです。

立役者は土木部工事課小山係長。直径60cmほどの蓋を開けると、地下へ降りる1.0mのコンクリート



「初めてのことだったので、面白かったです。高層ビルの中核となるマンホールは、丁寧な仕事で評価されたと思います。」

壁、下には汚水が流れ、有毒ガス発生のおそれもあり、万一汚水管に転落すれば、命にかかわる現場です。

「何もない所での足場作り、資材は60cmの穴から出し入れします。日々緊張の連続でした」と語る小山係長は、マンホール内の工事という初経験に、事前の勉強はもとより、期間中は勉強と創意工夫の繰り返しだったと言います。

「コンクリートはデリケートで湿気に弱いので、材料も厳選しましたが、それでも上手くいかない現場もありました。冬の工事とあって、外気と内部の気温差が10度もあり、結露がすごいです。現場で知恵を出しあって、夜間にファンを回しての作業で乗り切ることができました」

工事中は通行の交通安全対策や周辺環境への配慮も欠かさず、今回の受賞はそのあたりも評価の対象となっています。蓋をすれば目につかなくなるマンホール下の状況、その防食工事の品質にかけた努力が評価され、また一つ、男が磨かれる仕事となり、松永建設の財産となりました。